

大好きなお母さんへ

千葉県我孫子市立布佐中学校 三年

増田^{ますだ}

実紅^{みく}

ガサツで、めんどくさがりのお母さん。

でも、私たちの好きなものは

いつもちゃんと覚えてくれていた。

推しの話にも、嫌な顔ひとつせず

一緒に楽しんでくれたことが嬉しかった。

ふとした出来心でイタズラしたときは、

鬼になって、二時間も説教された。

そのとき、私は心から反省した。

勉強には厳しくて、たくさん喧嘩もした。

癌になっても、辛い顔は見せなかった。

本当はしんどかったはずなのに、

最後まで元気で私たちに尽くしてくれた。

それなのに、わがままばかり言っていた。

手伝いもせず、スマホばかり触っていた。

それが胸に深く残る後悔になっている。

あの日、勝手な都合で拗ねて寝ていた。

空へ旅立つ瞬間に、立ち会えなかった。

最後は、一緒にいたかったのに。

悔しかった。

だけどみんなが泣くなか、

私は涙を流せなかった。

葬式でも悲しいと思う自分はいなかった。

でも、それを悪いことだとは思わない。

だって、お母さんが

『ありのままのあなたが一番輝いてるよ』

って教えてくれたから。

お母さん。

私は今もあなたに教わった通り、
『ありのままの私』で生きてるよ。